

# ピロロ



第23回広尾町農村運動会 ..... 2～3  
第45回十勝総合畜産共進会(肉用牛の部) ... 4  
平成26年度中国人技能実習生夏期交流会  
コミュニケーションで労災事故防止を ..... 5  
第33回国際農業機械展 in 帯広  
～8年ぶりに開催される～  
平成26年度JAひろお交通安全大会 ..... 6  
広尾給油所セルフ化6周年記念イベント開催  
小麦の収穫終わる  
第2回ピロロフェス開催！ ..... 7  
森田牧場で農業体験！

十勝地区JA女性部長視察研修 ..... 8  
理事会 ..... 9  
JAバンク年金受取キャンペーン ..... 10  
年金相談会のご案内 ..... 11  
余裕資金を有効活用 ..... 12  
一時払介護共済 ..... 13  
表紙インタビュー・占い ..... 14  
食のはなし ..... 15  
背表紙 ..... 16



借り物競争



チームワークナンバーワン



早く、上手に



幼児競争



やさしくコロコロ



協同の力



ビール早飲み



牛乳でカンパニー!!



# 第23回 広尾町農村運動会

7月26日、第23回広尾町農村運動会が豊似小学校グラウンドで開催されました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方々にご参加いただきました。

J Aひろお青年部 渡部部長の開催宣言の後、萬亀山組合長の開会挨拶、広尾町長 村瀬優氏、衆議院議員 中川郁子氏、北海道議会議員 喜多龍一氏、十勝農業共済組合組合長理事 岡田恒博氏よりご祝辞をいただきました。

紋別チームの佐藤昌之さん、知恵美さんご夫婦による選手宣誓の後、参加者全員でラジオ体操を行い、競技に移りました。

個人・団体合わせて8種目の競技が行われ、どの競技も大いに盛り上がり、特に「協同の力（綱引き）」と「地区対抗リレー」では、参加者から力のこもったかけ声があがり、応援席からも熱い声援が送られていました。

各チームの実力が拮抗する中、昨年に引き続き今年も紋別チームが優勝し、7連覇を達成しました。

運動会終了後は、親睦交流会が行われ、運動会名物の肉牛部会による牛の丸焼きに舌鼓を打ち、また各種ゲームで盛り上がり、参加者全員が、日頃の農作業の疲れを忘れ楽しむことができた1日となりました。



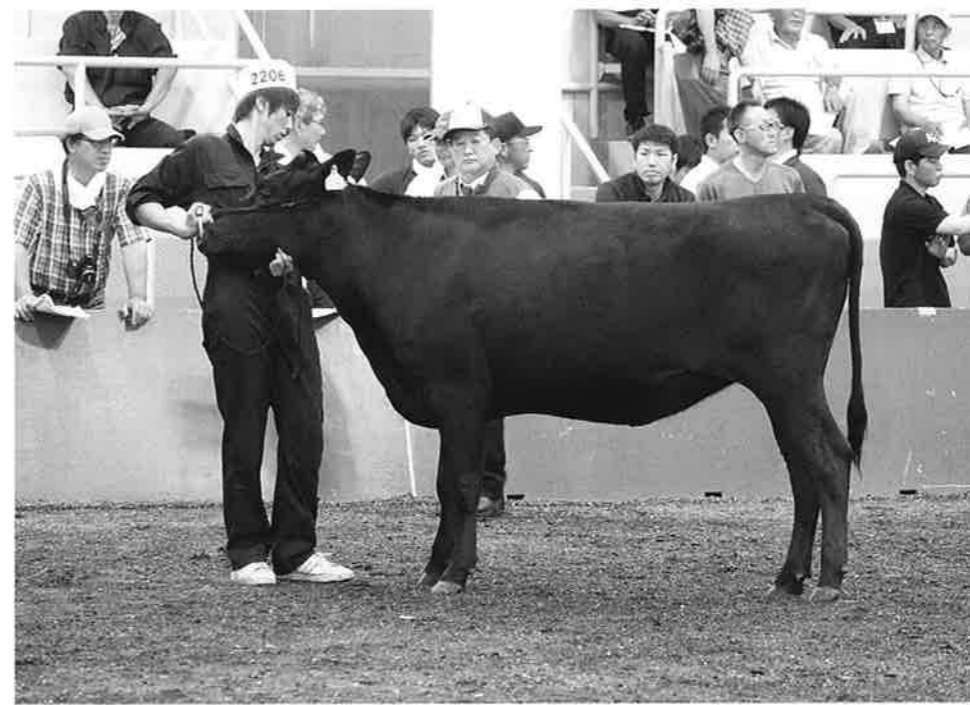
食欲の夏「元気な子」



選手宣誓

# 第45回 十勝総合畜産共進会(肉用牛の部)

7月24日～25日、第45回十勝総合畜産共進会(肉用牛の部)が十勝農協連家畜品評会場にて開催され、十勝管内から個体95頭、群10組の出品があり、24日測尺審査・栄養度審査、25日審査の日程で行われました。



審査員は、(一社)北海道酪農畜産協会家畜登録改良部長 栗生要氏、(独)家畜改良センター十勝牧場業務第一課長 岡田真人氏の2名が厳正かつ迅速に進めていました。

本JAからは(有)北藤ファームより出品された「こまち号」が、第22部で2等3席を獲得しました。

## 平成26年度中国人技能実習生夏期交流会

# 「日本の海で大はしゃぎ」



8月5日、JA広尾外国人研修生受入農家連絡会の主催による夏期交流会が、シーサイドパークで行われました。この交流会は、実習生の日頃の労苦に対する慰労と、普段はなかなか会うことが出来ない同期で入国した他の実習生との交流や、受入農家同士の情報交換を兼ねて毎年企画されており、当日はあいにくの天候で、雨や風が

やや強い時もありましたが、中国内陸の鐘祥市から来ている実習生には海が珍しく、天候を忘れて展望場に登ったり、海を背景にした写真を撮り合ったりしていました。また、懇親会では受入農家が用意した焼き肉を頬張り、ビンゴゲームやスイカ割り等を行い、楽しい一日を過ごしました。

## コミュニケーションで労災事故防止を

7月14日、十勝地区中国人研修生受入農家連絡会現地研修会がJA鹿追町にて行われました。

この現地研修会は、中国の送り出し機関から技能実習生の受入を行っているJA鹿追町・JA忠類・JAひろおと事務局の十勝農協連で構成されており、実習生の人的な保護と十勝管内の実習生受入農家会員の情報交換や親睦を兼ねて毎年行われております。

本町からは川崎会長を始め、8戸の受入農家の方々が参加しました。研修会では、「技能実習生の健康保



全と事故・災害防止に向けて」と題し、JITCO労働安全アドバイザーの佐藤司氏より年を重ねる毎に、実習生の事故が多くなってきたとあり、平成25年度では全国で22名の方が労働災害により死亡し、北海道は幸い死亡事故はありませんが、平成24年度は状況で31人の方が労災事故に遭っており、その割合は6割が水産、3割が農業、1割がその他とのことでした。

実習生は勿論ですが、悲惨な農作業事故を防ぐためには、お互いのコミュニケーションや、情報交換が気楽に出る環境づくりが必要であり、特に実習生には危険な箇所には母国語による表示も必要との説明がありました。

その後、しかりべつ川公園パークゴルフ場に会場を移し、JA鹿追町の佐藤組合長より「実習生には大変助けられており、今後もお互いの連絡会が協力をしながら、実習生受け入れを介し、地域の生産額の維持と拡大を目指していきたい」との挨拶をいただき、懇親会で会員相互の親睦が図られました。

農業振興課では、労働力確保の一端を担う取り組みとして外国人技能実習生の受入の相談を行っておりますので、ご希望の方はご一報下さい。

## 第33回

# 国際農業機械展in帯広

(8年ぶりに開催される)

7月10日～14日までの5日間、「第33回国際農業機械展in帯広」が北愛国交流広場において開催されました。

会場には、技術の粋を集めた最新の農業機械約2千点が展示され農業関係者など約20万人の入場者で賑わいました。

4年に1度開催されている農業機械展ですが、前回の2010年は国内で発生した口蹄疫の影響で延期され、翌2011年は東日本大震災により中止となったことから今回の開催は8年ぶりとなりました。

この農業機械展は、ホクレン、北海道農業機械工業会、十勝農業機械協議会の主催で「次世代農業へ新たな挑戦」をテーマに行われ、韓国、中国、イタリア、ドイツ、フランスを含め国内外から過去最多の119社・団体が出展、会場には大型の粗飼料収穫機やロボット搾乳機械、自動給餌機などの酪農関連機械や、情報通信技術を取り入れた最新鋭のトラクターが所狭しと展示され、GPSやコンピュータ制御により無人走行するトラクターには進化を続ける機械に未来の農業を想像させられました。



# 交通安全大会

8月8日、JAひろお交通安全大会が広尾町農村環境改善センターで開催されました。

この大会は、職場から交通事故を起こさない、遭わないために職場全体で交通安全に取り組み意識の高揚を図ることを目的に開催しています。

今年度の交通安全推進目標を全員で朗唱した後、萬亀山組合長の開催挨拶に続き職場を代表して農業支援課の谷職員が「職場の総意として安全で安心な町づくりを目指し、交通事故防止に取り組みます」と交通安全宣言を行いました。

その後、岩佐広尾警察署長より交通安全に対する訓辞を頂き、青木地域交通課長からは北海道の交通



事故の状況を踏まえ交通事故防止について指導を受け、これからも交通事故のない職場を目指すことを職員全員が再認識する大会となりました。

# 広尾給油所セルフ化6周年記念イベント開催



6月28日～29日の2日間、日頃のご利用に感謝の意を込めまして、広尾給油所セルフ化6周年記念のイベントが行われました。

この期間中、店舗ガソリン・軽油をイベント特別価格とし、給油されたお客様には粗品を進呈しました。

2日間とも天候に恵まれて開店から閉店まで長い列が続くほど、たくさんのお客さんが来店されました。

平成20年に広尾セルフ給油所がオープンして以来、広く町民の方々に利用され、毎年利用実績も伸びています。

今後とも、広尾給油所につきましては「信頼されるJA給油所」をモットーに、色々なイベント等を通じて農業やJA事業の情報を発信する拠点として取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。

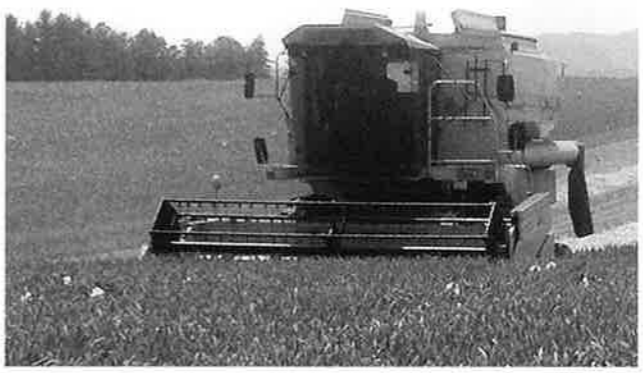
# 小麦の収穫終わる

7月29日より秋播小麦の収穫作業が始まりました。

今年の小麦は、成熟期が早かったことから収穫も平年より7日早く始まり、その後も好天に恵まれ順調に収穫作業が続けられたため、平年より9日早い8月2日に終了しました。

今年は、風雨の影響による倒伏はありませんでしたが、起生期や止葉期の追肥の発現が遅れたことによりタンパクが増加する結果となりました。

また、降雨により赤かび病の防除が十分できなかったことから赤かび病の発病穂が散見され、



このため子実の充実中実中実が起るこことから規格外小麦が増加するなど製品歩留まりの低下が懸念されています。

# 第2回 ピロロフェス開催!

8月10日、昨年度から広尾町のイベントとして行われているピロロフェスが、菊地ファーム敷地内の森林で行われました。

このピロロフェスは、昨年度町民の有志により結成されたピロロフェス実行委員会が主催し、「広尾をもっと知ってもっと好きになろう」をテーマに行われています。

今年度は林業をメインテーマとして行われ、当日は自然と触れ合う森ツアーや伐採見学、音楽ライブや広尾産農畜産物の販売など様々な企画が行われ、会場は終始賑わいを見せ、来場された方々の笑顔に包まれ無事に終了しました。



# 森田牧場で農業体験!

7月23日～28日の6日間、東京都三鷹市の小学生から高校生までの15名と引率者5名の計20名が森

田誠牧場にて農業体験や自然体験を楽しみました。



この取り組みは、三鷹市の「学童保育げんこつ組」で16年前から毎年この時期に実施しているもので、今年も多く時間を森田誠牧場で過ごしました。

滞在期間中は、牧場内の見学や作業体験をしたり、アイス作りやパン作りを体験し、また広尾町農村運動会にも参加したりと、有意義な時間を過ごしていました。参加していた児童たちは「こんなに自然がいっぱいこのころで、いろいろな体験をしたりできて楽しい!」と笑顔で話していました。